九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日中日常あいさつ表現考察 ： テレビドラマの対照比較から

曲，志強
九州大学大学院比較社会文化学府

https://doi.org/10.15017/4494635

出版情報：比較社会文化研究. 19, pp.29-36, 2006-03-10. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

『比較社会文化研究』第19号（2006）29～36
Social and Cultural Studies
No. 19（2006）, pp. 29～36

日中日常あいさつ表現考察

～テレビドラマの対照比較から～

曲（キョク）　志（シ）　強（キョウ）

1．はじめに

20世紀80年代以来、ビジネス関係及び留学、就職、定住などの理由で日本に滞在する中国人は益々増えている。それと同時に、同様の理由で、中国に滞在する日本人も増加の一歩をたどっている。日本と中国は同じ漢字文化圏の国であり、歴史的にも文化的にも緊密な関係を持ち、両国とも儒教の影響が大きい。そのため人間関係においても互いの調和を大事にするという点などに同じ傾向が見られる。しかし、実際のコミュニケーションの方法は異なる部分が多く、この違いを考慮に入れずにコミュニケーションを行うとトラブルの元となることがある。

日常におけるあいさつは、一般的な社交儀礼だけではなく、それぞれの国や民族の文化および人情の違いも反映している。従って日常あいさつ表現の考察を通じて、それぞれの国や民族の人間関係やコミュニケーションの特徴を窺うことができると考えられる。そこで本稿においては、日中日常あいさつの対照比較を通して両国の言語、文化的異同を考察することを目的とする。

2．あいさつの定義

2．1．あいさつの定義

鈴木（1981、p.34）では、日常的なあいさつである「おはよう」のたぐいから、自己紹介、祝詞や答辞などまで、どれもあいさつとみなすことができるとしている。この定義はさらに、会った際、別れる際に行う日常的なあいさつと、冠婚葬祭などのより公な場面における特別なあいさつの二種類の枠に組みなおすことができる。

比嘉（1981、p．5）は、「『人と人とが会ったときや別れるときにとりかわされる社交的なあるいは儀礼的なことばや動作』であると一般的に定義されている。」と、日常的なあいさつの定義について指摘している。本稿では、主に日中の日常的あいさつ、特に人と出会った際に生じる短い発話を中心とする「あいさつ」が考察の対象であるので、比嘉（1981、p．5）に指摘された定義を採用し、日本人と中国人の日常あいさつ表現を対照比較して考えてみたい。

2．2．日本語の「あいさつ」と中国語の「寒暄」「打招呼」

日本語の「あいさつ」を中国語と対照するために、まず「あいさつ」の項目をより詳しく取り上げてある『広辞苑』第五版の「あいさつ」p．5の項目を以下のようにあげてみよう。

①〔仏〕禅家で、問答を交して相手の悟りの深浅を試みること。
②うけこたえ。応答。返事。
③人に会ったり別れたりするとき、儀礼的に取り交す言葉や動作。
④儀式・会合などで、祝意や謝意、親愛の気持、あるいは告示などを述べること。また、その言葉。
⑤（「御―」の形で）相手の挑発的な、礼を失したような言動を皮肉っていう語。
⑥仲裁。仲裁人。
⑦紹介。紹介者。
⑧人と人との間柄。交際。

では、日本語の社交的儀礼的意味上の「あいさつ」は、中国語でどのように表現されているかというと、ほとんどの日中辞典の「あいさつ」の項目には、「打招呼」「寒暄」「应酬话」及び「致词」「回答」と訳されている。（『新日漢辞典』（大連外国語学院《新日漢辞典》編写組編1994、p．4）、『日中辞典』（小学館・北京商務印書館編、p．3）など参照）。

ここでまず、「应酬话」、「致词」及び「回答」の意味を見てみよう。

「应酬话」：应酬／①交際する、（客に）応対する、応接する、もてなす。应酬话／交際上のお愛想、あいさつ言葉。②（個人的な）つきあい、集まり、宴会。
「致词」：（会議・式典などで感謝・祝賀などの）あいさつをする、式辞を述べる。
「回答」：回答（する）、返答（する）、答え（る）。

（『中国語辞典』伊地智善継編2002、p.588、p.1805、p.2032）、『中日辞典』（小学館・北京商務印書館編2003）など参照）

以上の意味で分かるように、中国語の「应酬话」、「致词」

及び「回答」は日常あいさつの範囲に属していないから、ここで主に「打招呼」と「寒暄」を考えてみる。

中国において、より広く使用されている、商務印書館出版の『現代汉语词典　修订本』(1997) と『新华词典　修订本』(2001) の「打招呼」と「寒暄」を検索してみる。

『現代汉语词典　修订本』(1997)：

「打招呼」①用语言或动作表示问候。／（言葉・しぐさで）あいさつする、会釈する。

②（事前或事后）就某项事情或某种问题予以通知、关照。／事前・事後に知らせる、通知する、よろしくと頼む。p.229

「寒暄」：见面时谈天气冷暖之类的应酬话。／会った時、時候、天気など当たり障りのない挨拶をする。“暄”は暖かいの意味　p.496

『新华词典　修订本』(2001)：

「打招呼」①用语言或动作表示问候。/（言葉・しぐさで）あいさつする、会釈する。

②（事前或事后）就某项事情或某种问题予以通知、关照。/事前・事後に知らせる、通知する、よろしくと頼む。p.162

「寒暄」：指见面时谈天气冷暖、生活琐事等应酬话。/会った時、時候、天気及び日常生活の瑣末なことなど当たり障りのない挨拶をする。p.377

両方を対照してみると、中国語の「打招呼」と「寒暄」は、日本語の「あいさつ」の③の「人に会ったり別れたりするとき、儀礼的に取り交す言葉や動作。」と対応する意味を持っていると考えられるであろう。また、天気以外に「生活琐事—日常生活の瑣末なこと」の内容も中国人のあいさつの重要な一部分であるということが伺えられる。

本研究では、主に日中日常あいさつ特に出会いのあいさつを考察するから、特定の場面でのあいさつ—「儀式・会合などで、祝意や謝意、親愛の気持、あるいは告示などを述べること。また、その言葉。」などの表現形式のあいさつを本研究から除外することにする。中国語の「打招呼」「寒暄」と対応する意味だと考えられる日本語の「あいさつ」の「人と会った時や別れる時にやりとりする、社交的・儀礼的な言葉や動作」の定義に従って、日本人と中国人の日常あいさつ表現を対照比較して考えてみたい。

3．研究方法

3．1．データ収集方法

あいさつの考察にあたっては、データの収集が重要課題である。先行研究を概観してみると、あいさつ表現に関するデータ収集の方法は、実際の会話の観察、アンケート調査表、インタビューなどがある。観察とインタビューは、対照者の情況及び言語意識を直接的に把握できるという利点がある半面、欠点としては、対照者の数が限られている場合には一般化できるかどうかという問題が残る。その点、アンケート調査は多数の被調査者に一定の様式のアンケート用紙を一斉に配布し回収することによって、大量のデータの収集が可能である。しかし、アンケート調査の欠点は、回答がコンパクトになりがちで、そして言語（文字）だけにデータが限られるために、相手の声の調子や表情身振りなどあいさつにおいて重要な要因を観察することができない。

以上のような理由から、データの多様性と一般化可能性の両方を併せて配慮するために、上述の方法を互いに補い合うように応用することが必要である。そのような方法の一つとしてテレビドラマをデータの収集対象とすることが会話やコミュニケーションの研究で行われている。熊谷（2003、p.11）は、「テレビドラマでは、場面のバリエーションが豊富なだけでなく、やりとりの形になっているので、定型的な感謝や謝罪の決まり文句以外のストラテジーも含めた言語行動の展開例が収集しやすい」と指摘している。本研究においては、特に日常生活の場面が中心となっているテレビドラマを日常あいさつのデータの収集の対象とすることとした。もちろん、脚本上のあいさつ表現の限界や演出上の特殊な意図の可能性も考える必要があるが、一方ドラマに現実味を出すためにその場面に自然な（典型的な）発話や行動が表現されていると考えることができる。したがって、できるだけ日常の生活で使用される言葉が使用されるようなドラマの選択が必要である。

3．2．調査対象

筆者は、今まで主にあいさつを行う双方の心理的な親疎を独立変数として、アンケート調査を利用して日中日常あいさつ表現を考察してきた（曲志強・王娟2001他）。しかし本研究では、あいさつを行う双方の社会的属性の違いや、あいさつが使用される場面の違いを考慮し、文化、言語双方の視点から調査する。調査対象として選んだテレビドラマは以下のとおりである。

日本：『恋を何年休んでますか』　脚本－吉田紀子　TBS 2001年（連続10話、以下『恋』と略す）

中国：『結婚十年』　脚本—許波　CCTV　2003年（連続20話の前10話、以下『結婚』）と略す）

『恋』については、2001年に放送された後、日本で高い視聴率を記録した。反響が大きいためにそのホームページにおいてるBBS「トークバトル, yes or no」で公開投稿を行っていた。その中の一部分延べ約1,200人のメッセージを

そのまま収録し、『恋を何年休んでますか～ホームページ・トークバトル集～』（TBS「恋を何年休んでますか」制作スタッフ編（2002））の形で出版されるに至った。

『結婚』については、中国で2003年に放送前には何ら格別な宣伝もなかったが、放送後、大反響を呼び高い視聴率を記録した。「まさに私の事を言っているかのようだ」と多くの人が驚嘆し、北京テレビ芸術センターではテレビ業界の一部分の専門家に要請し討論会を行った。その討論会の結果、以下のような意見がまとめられた。(感悟婚姻変迁《结婚十年》开研讨会 http://news.chinamp3.com/html/news2480.php より取り出し、最終アクセス時間：2005年10月8日)

「从风格形态而言，这似乎是一部“逼真”于生活，近似于“纪录”的作品。它不雕饰，不刻意编排，只是照着现实，娓娓道来（訳文[1]：これは日常生活をそのまま記録するようなスタイルを取ったドラマであり、生活の真実に迫る作品である。ドラマにありがちな装飾と意識的なレイアウトが見られず、現実の生活そのものを見せることによって、かえって人の心を捉える作品となっている)。」

—中国作家協会創作研究部研究員彭加瑾

「『結婚十年』带给我的审美感受和欣赏的愉悦，首先就是它的生活化、真实性和亲切感以及它的朴素、自然（訳文：『結婚十年』は、生活に密着したスタイル、それからくる真実性、そこで交わされる人間関係の素朴なあたたかさにより、私たちに深い感銘を与えた)。」

—文芸評論家杜高

この二つのテレビドラマは、普通の人々の日常的な生活を中心にして描いた点で共通しており、その社会的背景も、実際に近く設定してあることは、以上に述べた評価からも推測できる。よって、これらのテレビドラマを調査資料として、自然に近い日常のあいさつ現象を調査できると考えられる。

4．調査結果と比較分析

この節では、日本と中国の２つのドラマから収集したデータについて、日常的におこなわれる、出会いのあいさつを日中間で比較しつつ報告する。

4．1．収集データの分類

まず出会いの回数を調べたところ、『恋』では105、『結婚』では130抽出できた。

双方の身分と関係性などの社会的要素の違い及び典型的な場面などの物理的要素の違いを総合的に考え、出会いの場面をＡからＦまで６種類に、登場人物の関係をａからｇまで７種類に分類した。その結果を表１と表２に示した。

表１『恋』における出会いの場面

物理的要素 ＼ 社会的要素	A 家庭内	B 職　場	C 移動中	D 社交の場	E１ 訪　問（家庭）	E２ 訪　問（職場）	F その他	合　計
a家　族	30	0	0	2	3	3	0	38
b友　人	0	1	10	11	8	6	0	36
c同　僚	0	4	0	0	1	0	0	5
d隣　人	0	0	0	0	0	0	0	0
e知合い	0	0	4	5	3	3	0	15
f初対面	0	0	0	3	2	1	0	6
gその他	0	0	0	0	0	0	5	5
合　計	30	5	14	21	17	13	5	105

1　本稿では、「訳文」と表示しているところは、全て中国語から筆者が訳したものである。

表２　『結婚』における出会いの場面

物理的要素 / 社会的要素	A 家庭内	B 職　場	C 移動中	D 社交の場	E１ 訪　問（家庭）	E２ 訪　問（職場）	F その他	合　計
a家　族	21	0	14	2	2	0	0	39
b友　人	0	0	2	1	3	3	0	9
c同　僚	0	12	0	0	2	0	0	14
d隣　人	0	0	39	0	12	0	0	51
e知合い	0	0	0	0	1	5	0	6
f初対面	0	0	0	1	6	2	0	9
gその他	0	0	0	0	0	0	2	2
合　計	21	12	55	4	26	10	2	130

あいさつ場面の分類標準は、以下のように考えている。

「A家庭内」：家族メンバー間が自宅での対面時

「B職　場」：同じ勤め先か所属のメンバーが、仕事中に出会ったとき

「C移動中」：事前の約束がなく、路上などで偶然に出会った時

「D社交の場」：パーティーなど主に事前に会う約束をしていた際の対面時

「E訪　問」：他人を訪問した場合の対面時

この部分に、２種類の状況が考えられる。「E１他人の家庭」への訪問と「E２他人の職場」への訪問である。

「Fその他」：主に物品の売買の関係で、従業員と客との店での対面時が多かった。

４．２．出会いのあいさつの対照分析

本稿で選んだテレビドラマは、日本と中国と各10回の放送分であるから、対面の回数に限界がある。そこで本稿ではあいさつの内容面（言語表現）の質的視点を中心に考察する。

４．２．１．あいさつの形式

『恋』と『結婚』から収集した出会いの例を観察してみると、あいさつの言葉を交わさずに直接実質的な話題に入る場合と、あいさつのことばを交わす場合との２種類の場面がある。あいさつのことばを交わさずに直接実質的な話題に入る場面は、ほとんど何か特別な事情か状況がある時に発生する。この点について、『恋』にも『結婚』にも同じ傾向が見えた。実際の例を挙げてみる。

例１：『恋』（背景：息子の健太が学校でトラブルを起こしたため、それを聞いたお父さんが急いで外から家に戻った）

良平（夫）→有子（妻）：健太、上？

有子→良平：おばあちゃんのところ。

例２：『結婚』（背景：両親と離れてお婆さんのところで生活している小さな息子から電話があった。隣人からそれを聞いた妻**韓夢**は、急いで家に戻って夫の成長に電話の内容を聞く。）

韓梦（妻）→成**长**(夫)：成**长**快跟我**说说**，他都**跟你说**什么了？**你跟**我**说说**，**啊**！

（訳文：成長、早く教えて、果果ちゃん何を話したの？早く教えてよ！）

成**长**→**韩**梦：**说**什么？

（訳文：何を話すというんだ？）

また、あいさつのことばを交わす場面を観察してみると、『恋』と『結婚』のあいさつのパターンは、以下のようにまとめることができる。

①「お互いにあいさつする」：あいさつ↔あいさつ

②「一方だけあいさつする」：あいさつ↔あいさつなし

それでは、次に『恋』と『結婚』では、具体的にどのような内容をもってあいさつするのか、その異同を次の節で観察してみたい。

４．２．２．あいさつの内容

前節に述べたように、実際にあいさつのことばを交わす場面には、『恋』と『結婚』両方ともお互いにあいさつするのと、一方だけあいさつするのと、２種類のパターンがある。この点について、『恋』と『結婚』は一致している。一方だけあいさつする場面には、あいさつをしない側は、主

に無言、もしくはことばの代わりに笑顔など顔の表情かジェスチャーなどで返事する。しかし、本研究ではあいさつことばの表現に関して考察することを主眼に置くため、この部分の日中対照比較は、今後の課題とする。

次に対面の場面において、双方がお互いにあいさつのやりとりをする場合の具体的なあいさつ内容を見ていきたい。それに先立って、ここで取りあげるあいさつの定義をもう一度明確にしておく。対面した時の双方の発話が、あいさつに当たるものなのか、それとも実質的な会話の内容であるかを判断するには、その発話内容がその後で相手に伝えようとする（社交的儀礼的ではない）内容と直接的な関係があるかないかという点の把握が必要である。つまり出会いが意図的であったり予測されている場合、出会う前に相手に伝えようとしていた内容（用件、用事）と直接的な関係がない発話は、社交的儀礼的部分が大きく、あいさつ表現に近いと判断できる。

以下に、具体的な例を挙げて検討する。

『恋』では、次のようなあいさつ内容を挙げることができる。

① 相手やその場の状況に言及することによってあいさつする：

例３：良平（夫）→有子（妻）：（夜、夫が家に帰ったところ、妻がメールをしている）またメール？

有子→良平：お帰り。

② 帰宅という行為に関してあいさつする：

例４：良平（夫）→有子（妻）：（夜、夫が家に帰る）ただいま！

有子→良平：お帰り！

③ 呼称であいさつする：

例５：会田、咲子（友達）→有子（友達）：有子さん。

有子→会田、咲子：あ、こんにちは！

④ 過去に受けた恩恵への感謝の表現によってあいさつする：

例６：男（業務関係）→礼子（業務関係）：どうもお疲れさん。

礼子→男：この間、どうもありがとうございました。

⑤ 時間か天気のことであいさつする：

例７：良平（夫）→有子（妻）：（朝、妻が台所で料理している時、夫は入る）お早う。

有子→良平：（笑い）

⑥ 初対面の時、その場で今後の一般的な関係継続を依頼することであいさつする：

例８：男（業務関係）→坂口礼子（業務関係）：坂口さん、どうも。こちらはうちの新人です。

礼子→新人：あ、坂口です。

新人→礼子：よろしくお願いします。

『結婚』では、次のようなあいさつ内容を挙げることができる。

① 相手のその場でやっていることかその場の状況、様子によってあいさつする：

例９：（背景：成長は道のそばに座って考え事をしている。友達の賈平は前を通って成長を見た。）

賈平(友達)→成长(友達)：干嘛呢？坐这儿？

（訳文：何をするの？こんなところに座るなんて。）

成长→賈平：没事儿，我坐这儿歇会儿，坐会儿！

（訳文：別に、ここでちょっと休憩しているんだ。座ろう！）

② 帰宅したこと自体に言及することよってあいさつする：

例10：（背景：お母さんは庭で孫の食事の面倒を見ているところに、息子は外から帰ってきた。）

儿子→母亲：妈，回来了

（訳文：お母さん。帰ってきた）。

母亲→儿子：死哪儿去了，怎么才回来？

（訳文：どこに行ったか？なんで今さら帰ってきた？）

③ 呼称であいさつする：

例11：（背景：妻の韓夢は女性の大家さんと家にいる。妻は引越しのために荷物を片付けている。この時、夫の成長は帰ってきた。）

成长（夫）→韩梦（妻）：韩梦（名前）。

韩梦→成长：成长呀（訳文：成長か。）

④ 初対面の時、「你好（こんにちは）！」をもってあいさつするが、その場で依頼の気持ちを表すことはない：

例13：（背景：韓夢と成長夫婦二人は新しい部屋で何人の友達と一緒に片付けている。大家の葉お婆さんは、お湯を入れた魔法瓶を持って入ってきた。）

韩梦→成长、叶：来来来，我介绍一下。这是我爱人成长，这是我们房东叶奶奶。

（訳文：ちょっと、ちょっと、紹介します。こちらは、主人の成長です。こちらは、大家さんの葉お婆ちゃんです。）

成长→葉：叶奶奶，你好！

（訳文：葉お婆ちゃん、こんにちは！）

叶→成长：你好！
（こんにちは！）

4．2．3．あいさつ内容の相違点

『恋』と『結婚』とのあいさつを比べると、主に以下の相違点が明らかになった。

①『結婚』では、相手やその場の状況に言及することによってあいさつする時、その後に続く内容はほとんど日常茶飯事に関するたわいのないものである。一方、『恋』の中には出現していない。

例を挙げてみる。

例14：倒水**呢**？王叔。（訳文：（隣人関係の成長から王おじさんへ）王おじさん、お湯くみのか？）

例15：洗菜**呢**？（訳文：（（隣人関係の成長から善おじいさんへ）野菜を洗っているのか？）

例16：**哟**！叶**奶奶**！（**哎**！）**您**买早点**去啦**？（訳文：イョー、葉おばあさん、（葉：アー！）朝食をお買いに行ったのでしょうか？）

例17：吃了**吗**？／吃了。（訳文：お食事済みましたか？／済みました。）

②帰宅という行為そのものへの言及は、『恋』でも『結婚』でもよくあいさつの内容として使われているが、『恋』の場合は、ほとんど「ただいま」↔「お帰り」「お帰りなさい」という決まり文句表現である。一方、同じ帰宅という行為に関するあいさつでも、『結婚』の場合はいろいろな表現が見られた。

例18：我回来了。（訳文：帰ってきた。）

例19：**你**回来了？（訳文：帰ってきたか？）

例20：**你**什么**时**候回来的？（訳文：いつ帰ってきたか？）

例21：**哟，今俩**人**这**么整**齐一块**回来了。（訳文：あら、今日は二人ちゃんとそろって帰ってきたわね。）

例22：**你今**儿怎么回来**这么**早**呀**？（訳文：今日はなんでこんなに早く帰ってきたのか？）

例23：**哟，**回来的**真**是**时**候。（訳文：あら、ちょうどいいところを帰ってきたわね。）

例24：**你**怎么**才**回来？（訳文：なんで今さら帰ってきたか？）

例25：正**说你，你**就回来了。（訳文：ちょうど今あなたの話しをしているところを帰ってきたのか。）

例26：**哎哟，**果果看**谁**回来了？（訳文：ほら、果果ちゃん見て、誰が帰ってきたか？）

③『恋』では過去の恩恵への感謝かこれからの依頼のことに言及することであいさつする表現が見られた。『結婚』の方に類似の表現は見られなかった。例えば：

例27：あ、この間、ごちそうさま。

例28：いつもすみません。

例29：どうも、この間、ありがとう、助かっちゃった。

例30：よろしくお願いします。

④『恋』では、友人あるいは知合いの間でも、「こんにちは！」及び「今晩は！」のあいさつが頻繁に交わされている。一方、『結婚』では、「**你**好（こんにちは）！」をもってあいさつするのは、基本的に初対面の場合に限られる。まれに、年下の方から年配の人に向けて使うことがある。

5．考察

以上の『恋』と『結婚』のあいさつの例の比較対照を通して、日本人と中国人の日常あいさつに関する以下のような傾向が伺える。

まず、前節で述べたように、『結婚』では、日常茶飯事をあいさつの内容にするのは、頻繁に見られる。一方、『恋』の中にはほとんど出現していない。あいさつする時、中国においては日常茶飯事について言及するという現象について、斉爽（2002、p.17）は中国人のあいさつ表現について次のように述べている。

> 「人と出会ったならば、何か声をかけるのが礼儀だ。声をかけなければ、礼儀知らず。だが、声をかけようにも、何も言うことがない場合もある。そこで、意味のないことを何か口にして、何も言うことがない気まずさを回避しようとする。『起きましたか？』も『散歩ですか？』も『出勤ですか？』も、話題がないところに何か話すことを見つけようとして発する『くだらないことば』なのである。だが、この愚にもつかぬことを口にしなければ、いかにも礼儀知らずに見えてしまう…これらは単なる挨拶であるから、誰も本気では受け取らない。右から左に聞き流し、言われたことばにふさわしいことばをひと言返せばそれでいい。」

ところが、このような日常茶飯事は、本当に「意味のないこと」、「誰も本気では受け取らない」のであろうか？『結婚』の例を考えてみると、これらの日常茶飯事のあいさつことばは、一つ明らかな特徴がある。つまり、その日常茶飯事の話題はほとんど「相手中心」で、相手の日常茶飯事についてあいさつのことばを交わすのである。筆者は、まさにこのような一見「意味のないこと」と見える日常茶飯事のあいさつことばを通じて、中国人が人間関係において礼儀正しさより、互いの親密さをより重視するという特徴があるのを表しているのではないかと考える。すなわち、日常茶飯事のような細かいことでも自分が相手をきちんと

観察していて、その相手に対し関心や興味を持っているということを表すためではないだろうか。ここでは、斉爽（2002、p.17）が指摘した「礼儀」より、人間関係の新密さは中国人のあいさつことばの中核だと言ってもよかろう。確かにこれらのあいさつの質問と返事によって得た実際の情報は、それほど重要ではないが、それより伝えた親しさの気持ちは、誰でもきちんと受け取るものであろう。

次に、帰宅時のあいさつとして、『恋』でも『結婚』でも「帰る」という行為自体に関してやりとりされることは共通点がある。日本人の「ただいま」↔「お帰り（なさい）」という形式的なあいさつについて小林(1986，p.71)の記述がある。「日本人のあいさつ行動は特有のウチ・ソト空間の把握とそれに伴う人間関係把握によって条件づけられる。…『ウチ』空間の出入りに際しては出会いと別れの各々に『いってらっしゃい』『いってきます』『ただいま』『お帰りなさい』と特定の相互非対称的なあいさつが交換される」。日本人の帰宅のあいさつは、儀式的な決まり文句が多く使われている。一方、中国人は同じ帰宅という行為そのものに関するあいさつをしても決まり文句を使うより、相手の帰宅の時間やタイミング、相手のその時点その場の実際の状況、様子に関して言及することであいさつとしており、表現を選択する幅が広く、表現方式も多様である。つまり中国人の方は、儀式より相手を中心にするやり方で礼儀正しさを表すと考えられる。

また『恋』を観察して得られた別の結果としては、日本人は家族の間でも「おはよう」、友人や知合いといった親しい間柄でも「おはよう」「こんにちは！」「今晩は！」などの形式的なあいさつを使用するということが挙げられる。これも先行研究と一致していると言える（杉戸1981 pp.47～59、江端1997 pp.62～65、橋元1999 pp.14～20）。ここで少し『恋』と『結婚』の対面（あいさつするか否かを考慮せず）の回数に対応するあいさつの頻度について述べる。『恋』の出会いの回数は105であり、その内訳は「こんにちは！」が13回、「お早う（ございます）！」が3回、「今晩は！」が5回であった。これに対し『結婚』では、対面の場面の総数130のうち、「**你**好！（こんにちは！）」がわずかに5回でそのうち3回は初対面で、親しい間柄では2回しか使用されなかった。初対面の場合、中国人は「**你**好！（訳文：こんにちは！）」という形式的なあいさつをするが、少し親しくなったら、この「**你**好！」を抜きにし、対面時の相手の様子や状況に言及することであいさつとする。

また初対面の時点において、『恋』で表れた「はじめまして、どうぞよろしくお願いします」↔「こちらこそ」といったあいさつも日本人の相互依存的な意識の表れとしてよく指摘されている。一方、『結婚』では「はじめまして、どうぞよろしくお願いします」に相当する「初次**见**面，请多**关**照」のあいさつのやりとりは、一回もなかった。これに関して、筆者は次のように考察する。中国人における初対面のあいさつとしては「初次**见**面，请多**关**照（はじめまして、どうぞよろしくお願いします）」より、「有事**说**一声（何か困ったことがあったら、遠慮せずに言って下さい）」と自ら進んで相手に声をかけるといった表現が多い（曲・林1999、p.421）。つまり相手にお願いするという依存的な表現によって相手の存在感を認めるのではなく、相手に協力する意思を示すことで相手の存在感を認め、相手を受け入れることを伝えるのではないかと考えている。

6．まとめと今後の課題

本稿では、テレビドラマに現れた日中両国の出会いのあいさつ表現についての対照比較と考察を通して、日本人と中国人との日常あいさつの特徴を明らかにしようとした。Brown & Levinson は、ことばによる他者への配慮が図られていることが世界の言語に普遍的な現象であると指摘している（岡本2001、pp.109～112）。日本語及び日本人の日常あいさつに関する研究において、「思いやり」「気配り」などが代表的なキーワードとして指摘されている。日本人と中国人の人間関係の結び方や距離の置き方の相違について曲・王（2001、p.33）では、日本人特有の個人責任を重視し、できるだけ他人に迷惑をかけないようにする価値観に基づく「思いやり」「気配り」を「遠慮文化」、中国人の相互補助、協力を重視する価値観に基づく互いへの「関心」「好意」を「配慮文化」と呼ぶことにした。本稿の『恋』と『結婚』の日常あいさつの対照比較を通しても、中国人の対面時のあいさつには互いへの「関心」と「注意」の特徴が見られる。この「配慮文化」を中国語で表現すれば、「**关**注文**化**[2]」とも言えるであろう。

最後に日常あいさつにおいて現れた相違点を、どう釈明すべきかということについてまとめる。日本人は「遠慮文化」の発想によって、「礼儀正しさ」を重視し、中国人の方は、「**关**注文**化**」（互いの関心、重要視）の発想によって、人間関係の「親しさ」を重視する傾向がある。日常あいさつ表現の相違点は、この二つの文化の違いに影響を受けていると考えられる。

今後の課題としては、あいさつことばと実質的内容に関する発話の分類基準である。これに関しては今後さらに改善し、明確な分類基準を確立する必要がある。

そしてさらに、日中日常あいさつ表現の考察を通じて、各々の人間関係の結び方、コミュニケーションの特徴を明らかにし、それによって日本人と中国人の相互理解に少しでも寄与することができればと願っている。

【参照文献】

伊地智善継編（2002）『中国語辞典』　白水社

江端義夫（1997）「挨拶言葉の分布と歴史」『国文学・解釈と教材の研究・日本語の方言と言語行動』学燈社　1997年6月号 pp. 62～64

岡本真一郎（2001）『ことばの社会心理学』ナカニシヤ出版

感悟婚姻変迁《结婚十年》开研讨会 http://news.chinamp3.com/html/news2480.php より取り出し、最終アクセス時間：2005年10月8日）

曲志強・王娟(2001)「日中日常あいさつ表現再考」『比較社会文化研究』第10号　九州大学大学院比較社会文化学府紀要 pp. 27～36

曲志強・林伸一(1999)「励まし表現の日中比較」『教育学研究紀要』中国四国教育学会・第45巻 pp.420～425

熊谷智子（2003）「シナリオのある会話　―ドラマの日本語の特徴―」『日本語学』第22巻 明治書院 pp. 6～14

小林祐子（1986）「あいさつ行動の日米比較研究」『日本語学』第5巻 明治書院 pp.65～75

斉爽(2002)『中国人そのことばの裏と表』佐藤嘉江子訳　はまの出版

新村出（1998）『広辞苑　第五版』岩波書店

商务印书馆辞书研究中心(2001)『新华词典　修订本』　中国商务印书馆

小学館・北京商務印書館編（2003）『日中辞典』　小学館

小学館・北京商務印書館編（2003）『中日辞典』　小学館

杉戸(1981)「あいさつの言葉と身振り」『「ことば」シリーズ14あいさつと言葉』文化庁編　大蔵省印刷局 pp.47～59

鈴木孝夫（1981）「「あいさつ」とはなにか」『「ことば」シリーズ14あいさつと言葉』文化庁編　大蔵省印刷局 pp.34～46

大連外国語学院《新日汉辞典》編写組編　『新日汉辞典』1994　辽宁人民出版社

中国社会科学院语言研究所词典编辑室(1997)『现代汉语词典　修订本』中国商务印书馆

橋元良明(1999)「コミュニケーションにおけるあいさつの役割」『国文学・解釈と教材の研究・あいさつことばとコミュニケーション』学燈社　1999年5月号 pp.14～20

An Analysis on the Usage of Daily Greetings in Chinese and Japanese
～A comparative research on expressions in Chinese and Japanese teleplay～

Qu Zhi Qiang

Since the 1980s, as a result of the increasing personnel exchange between China and Japan arising from commerce activities, overseas studying and MNC employment, a growing number of Chinese and Japanese are staying or even living in the country of their counterpart. Both are countries whose cultures are heavily influenced by Confucian ideas, and as such both China and Japan possess a similar tendency to place emphasis on the harmony of human relationships. However, significant differences still exist in the practice and methodology of harmony maintenance between the two countries. By comparatively investigating and analyzing the daily greeting behavior of Japanese and Chinese in general working and living environments, this thesis explores the characteristics of Chinese and Japanese in handling human relationships and communication, aiming to aid in the enhancement of mutual understanding between the Chinese and Japanese

2　中国語の「关注」は、「关心重视（関心を持つ、注意を払う）」という意味である。(『现代汉语辞典』1978、p.463)